

7年ぶり安倍首相正式『訪中』で ようやく終わった「対中ODA」。

あるときは『謎の発展途上国』、またあるときは『世界の経済大国』。

2つの顔を上手に使い分ける中華人民共和国。

《私たちは貧しい発展途上国です。お金ください。技術ください。助けてください日本さま。》とすがりつく中華人民共和国。

その一方で「わが中華人民共和国はアメリカに次ぐ世界第2の経済大国」である。10年後には中華人民共和国はアメリカを抜いて世界一の経済大国になっている。軍事力も増強中であり、これも世界一の軍事大国になるだろう。

■日本から新幹線の技術を盗み取ったら、中華人民共和国の技術のような顔をしてインドネシア、アメリカに高速鉄道計画などのインフラプロジェクトを売り込み、契約は取ったが工事は全く進まず、遅延したままである。

イギリスにもキャメロン元首相と組んで「原子力発電所を造る」と約束したもののイギリスのユーロ圏離脱の影響か、幸いなことに中国の（汚い・危ない）原発はイギリス側から辞退された、と聞いた。

■資源を持つがお金と技術のないアフリ

カの貧しい国々は独裁国家が多い。そこへ乗りこんでのマネートラップ（ワイロ攻勢）・政府要人に対するハニートラップ（色仕掛け、動画撮影）は中華人民共和国の得意技。

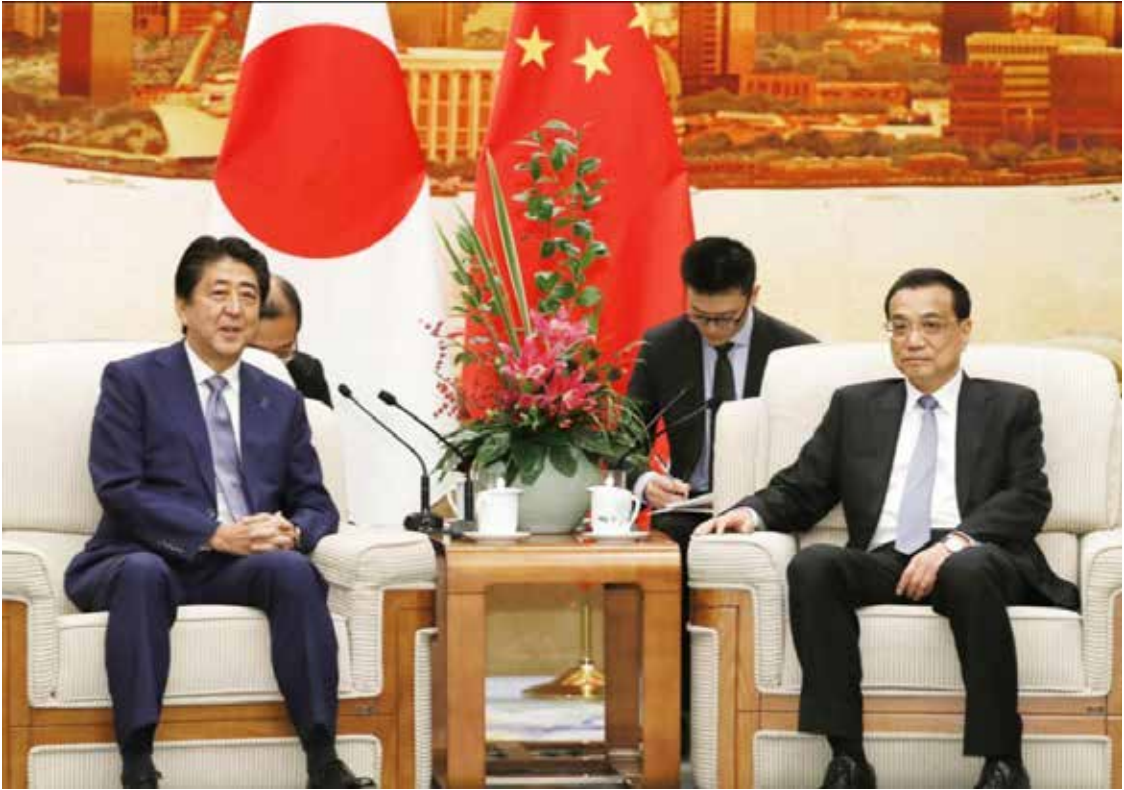
資源の権利を手中にするが開発の速度は極端に遅い。あまり世界中の資源に手を出し過ぎて、開発が間に合わないのか？最近では開発途中の鉱山や油井、ガス田、パイプラインなどを放り出して逃げかえってくる国営企業が続出しているのだとか。

一党独裁の共産党国家：中華人民共和国はアメリカの軍事力を追いかけて、追い越し、世界の覇権を虎視眈々と狙うとんでもない国家だ。スターウォーズの悪の帝国「ダースベーダー」が習近平皇帝。例の仮面など要らないほどよく似ている。そんな国に「お人よし日本」はODAを行ってきた。

ODAは先進国が**発展途上国**に対して行なう技術的、金銭的な援助のこと。

二国間援助の形態は「**先進国**の日本」が「**発展途上国の中国**」に**資金の貸与や無償の援助**を直接行なうもの。

一方の、多国間援助の形態は複数の先進国が、資金をプールし、**世界銀行**や**ユ**



中国の李克強首相(右)と歴史的使命を終えた安倍首相(左)

ニセフなどから発展途上国に間接的に融資を行なうもの。

日本はアメリカに次いで**世界第2位の額をODA**として出資している。

安倍晋三首相は日本の首相として約7年ぶりの中国公式訪問となった。

人民大会堂で開かれた『**日中平和友好条約締結40周年記念レセプション**』に出席。「**中国は世界第2位の経済大国へと発展した。日本の対中ODA（政府開発援助）は歴史的使命を終えた**」と述べ、**昭和54年から始めた対中ODAを終了する方針を表明した**。

対中ODAは、中国の改革開放政策の支援などを目的に始まった。インフラ整備を中心に低い金利で資金を貸し付ける「円借款」は新規供与が終了した平成19年までに3兆3165億円に上り、その後も続いた「無償資金協力」と「技術協力」と合わせ、総額で3兆6500億円を超えた。

相も変わらず、**中華人民共和国は「我が国の尖閣諸島」を脅かし、「沖縄」も中華人民共和国のものだ、とターゲットを拡大している**。

中国の核弾頭ミサイルは日本にピタリと照準を合わせており安倍晋三総理大臣もアメリカ大統領並みの歓迎ムードに騙されてはいけない。